

認知症患者とその家族を地域の中で支えるために

～サポーターの養成とその活動の場の開拓～

相場 健一¹⁾ 清水 みどり¹⁾ 美原 貫²⁾ 美原 盤³⁾

1) 伊勢崎市地域包括支援センター北・三郷

2) 公益財団法人脳血管研究所 在宅医療・介護統括局 局長

3) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 院長

[はじめに]地域包括支援センターの目的の一つとして認知症患者とその家族を地域の中で包括的・継続的に支援するための体制整備が求められている。この目的に対応して当センターが実施した認知症患者とその家族を地域の中で支える人材(サポーター)の養成、およびサポーターが活動する場の開拓について報告する。

[倫理的配慮]本研究は後ろ向き研究であり個人情報を取り扱わず対象者に不利益が生じないよう配慮した。当法人倫理審査委員会の承認を得た。

[取組み]令和4年～6年の期間、サポーター養成として①民生委員からの依頼により住民を対象とした認知症サポーター養成講座(認知症講座)の開催と②傾聴ボランティア養成講座(傾聴講座)を企画した。活動の場の開拓として③サポーターと認知症患者とその家族、地域住民、医療関係者の情報交換と参加者同士の繋がりとサポーターの活動の場の提供とスキルアップを目的とした認知症カフェ(サロン)の開催④認知症患者とその家族の言葉を傾聴する目的でセンター職員とサポーターが同行する患者宅訪問を企画した。

[結果]①認知症講座の開催頻度と受講者数は令和5年2回40人、令和6年6回132人と増加した。②傾聴講座は令和4年に1回開催し受講者数23人であった。③サロンは月1回を基本に開催し、地域住民の平均参加人数は令和4年10.2人、令和5年12.2人、令和6年13.3人と増加した。④サポーターの患者宅訪問は1件であった。

[まとめ]認知症講座の開催依頼の増加から地域住民の認知症への理解の深まりが感じられた。地域包括支援センターに求められる認知症患者とその家族を地域の中で支えるための体制整備として、サポーターの養成およびサポーターの活動の場の提供は、認知症ケア対策の一つとして意義深いと思われた。